

3. 先々月・先月の両園地探鳥会

①くろんど園地(10月) くろんど園地のカラスザンショウにムギマキがくることから、ムギマキを見るために偶数月開催とした第1回目の探鳥会、スタートから上りの遊歩道や、くろんど園地に入っても鳥が少なかった。ムギマキは、キャンプ場から見えるカラスザンショウにいなかったものの、奥まったカラスザンショウの林にムギマキ・キビタキが実を求めて飛び回る姿を観察でき、ホッとしました。奈良県側(くろんど池周辺)ではジョウビタキ・ビンズイ・カシラダカなどの冬の小鳥、エクリプスのコガモ、上空を渡りのノスリ、更にアトリの群が飛ぶなどが、次々にでて笑顔で終えることができた。

②ほしだ園地(11月) 私市集落でハイタカが2羽のハシトガラスにモビングされるのを見た後、天野川では怪我で3年前から定住しているオシドリ雄の繁殖羽、そしてセキレイ4種(ビンズイ+三色)を観察した。天野川沿いの遊歩道は、ほしだ園地で開催されている「紅葉まつり」・「おりひめの里特産市」に向かうハイカーが切れ目なし、そんな中でエナガを中心とするカラの混群を何回か見ることができ、林からはルリビタキの声が聞こえた。ほしだ園地ピトンの小屋周辺は都会の雑踏、しかし高圧線の鉄塔に休むハヤブサを行き・帰りともゆっくり観察し、一般の方にも望遠鏡で見てもらうことができた。ほしだ園地名物「星のブランコ」では、行き交う人で揺れる中、360度黄葉のコナラを楽しんだ。

4. 日本野鳥の会大阪支部からのお知らせ

①北河内の定例探鳥会(2019年1月度)案内

10月は鳥の渡りの最盛期、日本の北部で生まれた鳥が南に移動時に、公園の林で休んでおり、水辺では冬鳥の先陣、カモの仲間が到着します。

曜日 (月日)	場所	集合時間・場所
第1(日)(1/6)	枚方牧野	9:00京阪枚方市駅下車ラポールひらかた前
↳ 1月度より 集合場所を枚方市駅近くに変更したので 要注意 。		
第2(日)(1/13)	山田池公園	9:30現地公園北入口駐車場
第3(土)(1/19)	緑の文化園	9:00JR学研都市線四条駅東口
第4(土)(1/26)	ほしだ園地	9:30京阪交野線私市駅前
↳ (奇数月ほしだ園地・偶数月くろんど園地に変更)		

②日本野鳥の会入会時の会費

会員区分 (内容)	おおぞら会員 (本部+支部)	赤い鳥会員 (支部のみ)	むくどり会員 (支部・但し1年のみ)
年会費	7500円	3500円	1000円
入会金(初年度のみ)	1000円	1000円	—
会報 隔月刊(支部)	「むくどり通信」 (本部)	「むくどり通信」	「むくどり通信」
	「野鳥」	—	—

③ 探鳥会参加費 会員 100円 非会員 200円(交野のみの会員も)

参加費+名簿記入で探鳥会保険に入っています。しかし、痛みは保証しないので、怪我をしないように



府民の森 “くろんど園地探鳥会”

(毎月第4土曜日 両園地通算第228回)

平成30(2018)年12月22日(土) 9:30~15:00

日本野鳥の会大阪支部 平軍二(090-6901-1425)

友田武・神戸徹・斉藤健・近藤輝男

1. 交野の鳥シリーズ(86) マヒワ



友田武氏のフィールドノート12/18に、くろんど園地貯水ダムにマヒワ5羽(今季初認)と報告された。探鳥会でも是非観察したいとの思いから、2018年1月探鳥会で沖光二氏が貯水ダムのオオバヤシャブシで写されたマヒワ写真を利用させていただきました。

くろんど園地でマヒワが良く観察できる所は、①オオバヤシャブシのある貯水ダム周辺、②アキニレのある交野広場、そして③マツ・スギ・ヒノキ・ハンノキなどの実のある所です。オオバヤシャブシの実の写真でわかるように種子は翼果、種子散布の仕組みを持っていますが、マヒワなどアトリ科の鳥は種子の栄養価に目をつけ食べに来ます。

私(平)のフィールドである万博公園は、和洋折衷で多種多様の樹木が植えられているので、上の樹木の他に、アメリカフウ・メタセコイア・サルスベリ・カツラ・サワラなどもマヒワの食卓となっています。平野部の万博公園ではマヒワが毎年見ることはできないものの、多い年には200~300羽のマヒワの群舞、そしてアトリ・カワラヒワと数百羽の混群を観察できる年があります。ツグミなどポピュラーな冬鳥が少ない今冬、マヒワの群舞が見られるでしょう。

10月から、偶数月くろんど園地・奇数月ほしだ園地に変更しています。10月に「くろんど園地で渡りのムギマキ」、5月に「ほしだ園地でハヤブサ幼鳥」を見たいための変更でしたが、まず10月ムギマキは大成功でした。

